

【東海納税貯蓄組合連合会 会長賞】

「未来を創る税」

磐田市立向陽中学校 三年 青島 佑樹

僕は本が好きなので、よく書店に行って本を買う。そこでいつも気になってることがある。それは消費税だ。消費税が定価に加わると価格のきりが悪くなって払うときに面倒だ。そこまでして消費税を価格に加える意味はあるのだろうか。気になって、父に税の話を聞いてみた。

「税がないと生活が一変してしまうよ。それに税金は消費税以外にもいろいろ納められているよ。たとえば所得税とか、住民税とか。」

なぜ税で生活が変わるのか、なぜこんなに税を納めさせるのか疑問に思ったが、その答えは学校で税理士さんを迎えて行った租税講座にあった。

まず、納税は日本国憲法に定められた国民の義務であると教えられた。これは小学校の時に学んだことだが、さらにこの納税が民主主義の基本になっていっていると教えてくれた。自分たちで選んだ国の代表たちが、日本をよりよくするための政策に使うお金を国民が納める。なんとなく流れが分かってきた。そしてこの税金は多くが公共のサービスに使われていると分かった。例えば僕が通っている公立中学校の、税で賄われている教育費はなんと一人当たり約百七万円。すごい金額だ。そしてその他にも道路や学校の整備、警察や消防などのサービスも税金が基になっている。つまり、国民が払っている税金は生活を豊かにするものであって、日常の当たり前を守っているものだったのだ。

また、租税講座では税の集め方についても学んだ。消費税は商品に対して食料品などを除く一律十パーセントの税率だが、所得税などは一一人の負担する能力に応じて割合を変える累進課税という制度をとっている。その他にも集め方が異なるものがあるが、やはり一番は公平な集め方をすることが重要だと思う。社会ではいろいろな人がいる中で、その人に合わせた金額を納めてもらう、このような仕組みが大切だと学んだ。

租税講座で、税は日常を守る重要な役目を果たし、公平な集め方を目指していると学んだ。でも、その税金が間違ったところや必要のないところに使われていたらどうだろうか。暮らしをよりよくするための税金を正しく集め、使ってもらう。そのために僕たちができることは何だろうか。それは政治に参加することだと考える。今は十八歳以上が選挙権をもっている中で、政治に関心を持ち、税をこんなところに使ってほしいという自分の考えを持つことが大切だ。先日行われた参議院選挙の投票率は約五十九パーセントだったそうだ。もっとたくさんの方が選挙で自分の考えを託し続けることが未来につながると思う。

これからの未来を創る税。しっかり納めることはもちろん、僕たちが

政治に関心をもち税について考え続けることが大切だ。なぜなら、これからの未来を創るのは他でもない僕たちだからだ。

【静岡県納税貯蓄組合連合会 会長賞】

「怪我と私と税」

磐田市立豊岡中学校 三年 佐津川 莉子

「また通うことになるのかな…」

私の心は、不安な気持ちでざわついた。

バスケットボールをしている私は、中学生になってから怪我が続き、通院することが多くなった。良くなったと思ったらまた違う所を痛めたり、リハビリも含めて半年くらいかかったこともあった。怪我が長引くにつれて、思うように運動できないつらさに、時間を作って病院に連れて行ってくれる親への申し訳なさも加わり、気持ちは落ち込んだ。

そんな時、ふと会計時に、自分の支払いの自己負担がないことに気づいた。帰宅してすぐに親に確認し、こども医療費助成という制度について知った。

私の住んでいるところでは、子どもは年齢に応じて、通院、入院共に自己負担なしで診てもらえることができる。私のように長い通院が必要になった時にも、医療費の心配をせずに治療を受けることができる。ただでさえ治療中で不安な時に、とても支えになる制度だ。以前の私は、ありがたいことにとても健康で、継続して病院に行くことがなかった。そして中学生になってから、自分で会計手続きをする機会ができたことで、改めて気づくことができたのだ。

公共の制度ということ、この助成制度の財源は、税金である。不要な診察を受けないということはもちろん大前提だが、必要な時に必要な治療を受けられるということは、とても大きな安心感に繋がる。

思えば、私が普段生活している中でも、税金によって支えてもらっていることはとても多い。警察や消防などの生活の安全、行政や福祉、ごみの収集など生活に必要なこと、学校や道路、公園や施設の設備など、様々な面で税金が使われている。普段はそれが当たり前になっていて、改めて考えてみると税は私の生活に大きく関わっているものだと感じた。

中学生の今の私にとっての身近な税金は、買い物をしたり、サービスを受けたりした時にかかる、消費税だ。でもいざれ私も働くようになり、所得税や住民税などを納める時がくると思う。自分の働いたお金が減るのは正直悔しいような気持ちだが今は少しあるけれど、今まで支えてもらってきたという気持ちと、これからをみんなで共に支えて生きていくという考えを持ち続けていきたいと思う。

今までも、税に関することをニュースで見たり、学校で学んだりする機会はあったが、なんとなくもっと先のような感じがしていた。しかしこれからは、自分の生活に身近なものとして考えたり、税の使いみちに

関心を持ったりしていくことも大切なことだと思った。

私が、また通うことになるのかな、と通院中に抱いていた不安は、色々なことを知るうちに、今を支えてもらっている感謝に変わった。怪我をしたことは辛かったけれど、そのおかげで税と私の関わりを知ることができて良かった。

【磐周納税貯蓄組合連合会 会長賞】

「税金は世界の子どもを救う！」

磐田市立豊田中学校 三年 千葉 柚月

僕たち日本の子どもは、小学校や中学校であたりまえのように勉強をしています。でも世界を見てみると、学校に通いたくても通えない子どもがたくさんいます。国連の発表によると、世界には今でも一億人以上の子どもが教育を受けられていないそうです。このことを初めて知ったとき、僕はとても驚き、なぜそんなことが起きているのかを考えました。

たとえば、アフリカの一部の国では、学校まで何時間も歩かなければいけない地域もあります。先生が足りなかったり、黒板や教科書すらない学校もあります。さらに、家庭がとても貧しくて子どもが働かないと生活できない場合もあると知りました。僕たちにとってはあたりまえのことが、世界の子どもたちにとっては「夢」であることに、僕は大きなショックを受けました。

日本では、税金によって義務教育が支えられています。教科書も無料で配ってもらえるし、学校もきれいで安全です。こうした教育を受けられるのは、自分の親だけでなく社会全体が「税金」を使って支えてくれているからなのだと知りました。そして日本の税金の一部は「ODA(政府開発援助)」という形で教育に困っている国を支援するためにも使われているそうです。例えば、学校を建てたり先生の育成を手伝ったりする活動です。

もちろん、日本にも課題はあります。少子高齢化や物価の上昇など、税金の使い方はこれからますます重要になっていきます。けれど、だからこそ将来の社会をつくる「教育」という分野には、国内だけでなく国際的にも目を向け、力を入れていく必要があるのではないかと僕は思います。教育を受けなければ子どもたちは未来への希望を持つことが難しいと思うからです。

僕は、日本の税金の一部を世界の子どもたちの教育のためにも使い続けてほしいと思います。それは遠い国の話のようにも感じるかもしれませんが、実は僕たちの暮らしにも関わってくるはずです。教育を受けた子どもが増えることで、世界の貧困や争いが減り、平和で安定した未来をつくることができると思います。

税金は、ただ「取られるお金」ではなく、「みんなの未来を支えるお金」だと思います。僕たちも将来働いて税金を納める立場になります。そのときには、自分の納めたお金をどのように使ってほしいか、しっかりと考える力を持っていたいです。そして世界の子どもたちと繋がっていることを意識しながら、日本の役割について考えていきたいと思います。

【磐周納税貯蓄組合連合会 会長賞】

「税金が繋ぐ豊かな自然」

磐田市立向陽中学校 三年 内山 結渚

日本は、国土の約七割を森林が占めており、その豊かさから「森林大国」とも呼ばれるほど自然が豊かな国だ。そんな日本には、現在およそ五十種類の税金があるが、令和六年度より新たに「森林環境税」が導入されたことをご存知だろうか。森林環境税は、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を削減することや災害を防ぐことを目的とした、森林整備のための資金を安定的に得る必要があるという観点から、国税の一つとして導入された税金である。森林には、地球温暖化の防止や洪水、土砂崩れといった災害を防止する役割などがあり、非常に重要な働きがある。そのため、森林整備を行い、森林を守っていくことが大切であり、森林環境税が導入されたのである。このことにより、日本各地で様々な事業が行われ、その事例も報告されている。例えば、森林率の全国一位を誇る高知県では、長期間手入れがされていなかった森林地域の整備を行い、さらに人材育成にもつながる取り組みを行ったとの報告がされている。この他にも全国では、災害に備えるための環境整備の実施、地域の小学生に森の保全の大切さを伝えるプロジェクトの推進など多くの事業が行われ、森林環境税が幅広く活動に役立てられているようだ。だから私は、森林環境税は、日本の森の豊かさを未来へ繋ぐ架け橋のような存在なのではないかと思う。もし、森林環境税がなかった場合、守っていくべき貴重な森林資源が失いかけない状況になってしまうかもしれないのだ。

このようなことから私は、税金を納めることの大切さと意義を感じた。さらに、森林をはじめとする自然環境、そして私達の暮らしが税金によって支えられているという一面に気付くこともできた。

私達が今、こうして安心して生活できる環境に恵まれているのは税金のおかげである。つまり、税金と私達の暮らしはとても密接な関係にあり、税金があるからこそ私達は便利に生活することができている。また、税金について改めて考えてみると、森林環境税には日本の森林を整備し、環境を保全するという意味があるように、税金には一つひとつ大切な意味があるということも実感できる。そして、その一つひとつの税金が私達の暮らしを支えているのだ。税金は、「納めなければいけないもの」と思ってしまうがちだが、税金の用途や意味を考えてみると、税金は私達の暮らしを常に支えてくれる大切なものだと思えることができる。誰もが安心して暮らすことのできるより良い国づくりのためには、私達が税金の意義や役割をきちんと理解して納税することが大切だ。